

～第35回愛専会研修会参加報告～

第35回愛知県鍼灸研修会 主催（一社）愛知県鍼灸専門師会

日時：1月19日（日）

会場：名古屋医健スポーツ専門学校

演題1：「下痢には紅茶、便秘には??」

～鍼灸臨床にすぐ使える疾患別栄養学

講師：森口 幸子先生（管理栄養士）

演題2：「魅せる良導絡治療」

～ 難治性脱毛症に対する身体と心・免疫からのアプローチ

講師：松森 裕司先生（鍼灸師・ライフ治療院院長）

栄養学の講演は（とてもわかり易く良かった、臨床に繋がる内容で良かった、資料が沢山あって後で読み直せる、栄養学が健康に重要であることを改めて認識させられました、等）と大きな反響がありました。

現在鍼灸師の教育制度の中で、鍼灸大学以外の専門学校では栄養学の講義がありません。臨床に携わる鍼灸師として栄養学の正しい知識を持つことは必須と考えております。今回森口先生の講義を拝聴して、その重要性を改めて認識させていただきました。

松森先生の講演は（とてもわかり易く良かった、臨床に繋がる内容で良かった、実技がみられて良かった、鍼灸以外の勉強も大事と思った、良導絡に興味を持った、上咽頭炎と脱毛の関係を知り驚きました等）とこれも大きな反響がありました。

今回松森先生の講義を拝聴して、医師との連携を大切にされて信頼を得られていることや、広い視野で医療を研究されている臨床家としての姿勢に大変感銘を受けました。又、汎発性脱毛症に対して、慢性上咽頭炎の病巣感染が原因であるという仮説に基づき梅エキスを用いた鼻うがいをすることで著明に改善した症例を、経過を写真で見ることができ大変参考になりました。

今回参加者が少なかったのが残念でしたが、講演内容は大変充実しており、臨床家としての視野が広がったと思います。鍼灸師としての軸足はぶれずに専門性を高めつつ、健康維持に大切な栄養学を学び、難治性疾患では様々なアプローチを試みることは患者さんのためであり、鍼灸治療の質を高めると確信しております。

長岡 亨

